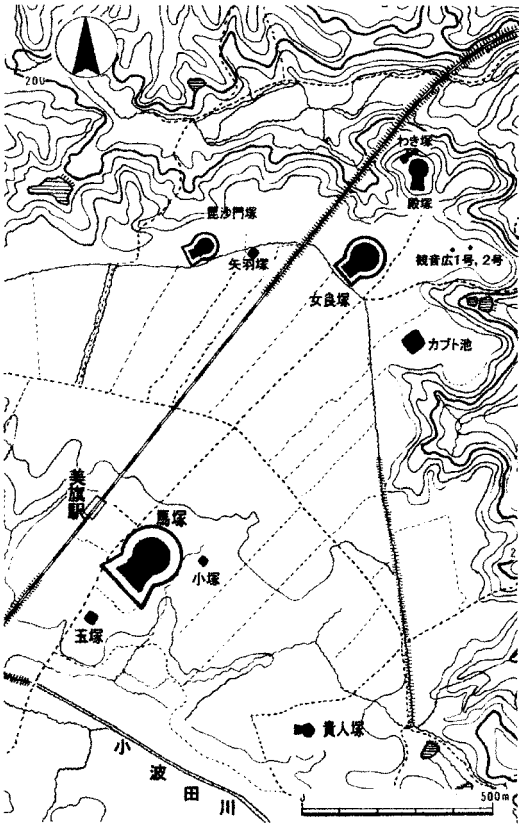
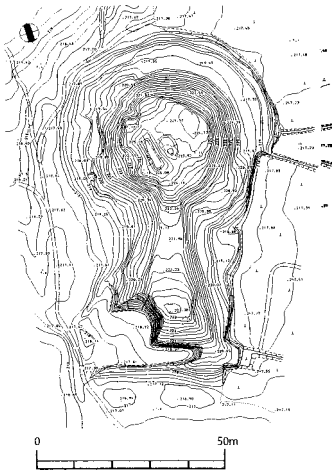
1．美旗（みはた）古墳群（1～10・94・330）　新田・下小波田・上小波田

遺跡の概要　小波田川右岸に広がる平坦な美旗の台地に位置する５基の前方後円墳（いずれの古墳も後円部の直径が全長の二分の一以上を占め、帆立貝式古墳とすべきかもしれない）を中心に円墳、方墳で構成する古墳群である。殿塚古墳、女良塚古墳、毘沙門塚古墳、馬塚古墳及び小塚、貴人塚古墳の５基の前方後円墳と円墳の赤井塚古墳は、昭和53年（1978）に国指定の史跡として指定された。

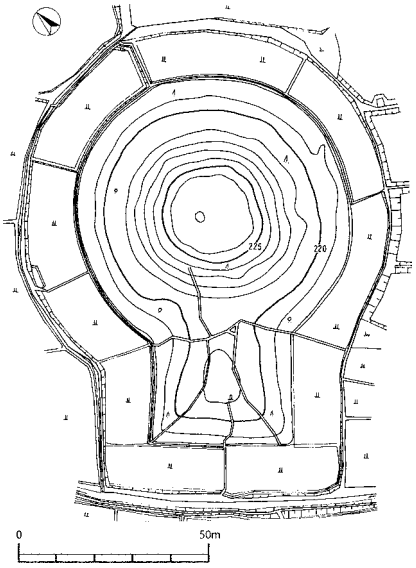


美旗古墳群分布図

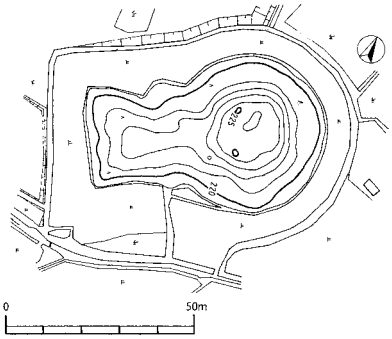
殿塚（とのづか）古墳　台地の北西の端部に位置する全長約92mの前方後円墳で、北北東―南南西方向に主軸をとる。後円部は、直径56m、高さ7.2mを測り、墳頂部に大きな盗掘壙がある。前方部は、西南隅が土取りで削り取られているが幅約40m、高さ6.2mの小さな前方部で形式的に古い形態を示す古墳である。墳丘は、後円部三段築成前方部二段築成で、全面に葺石で覆われ、形象埴輪や、円筒埴輪の破片が確認されている。古墳の周囲は、空堀状の平坦地で、この平坦地を挟んで後円部後方に、陪塚のワキ塚１号墳と２号墳があり、発掘調査されている。ワキ塚１号墳は、一辺約23mの方墳で、主体部は、埋葬施設ではなく、衝角付冑や鋳造鉄斧をはじめとする鉄製武器、武具や工具と銅鏡、櫛、石製円板などが木櫃に納められた状態で出土している。ワキ塚２号墳は、長径約26mの楕円形の墳丘で、主体部は、二つの粘土槨があり、それぞれ鉄刀や鉄鏃を副葬していた。



殿塚墳丘測量図



女良塚墳丘測量図



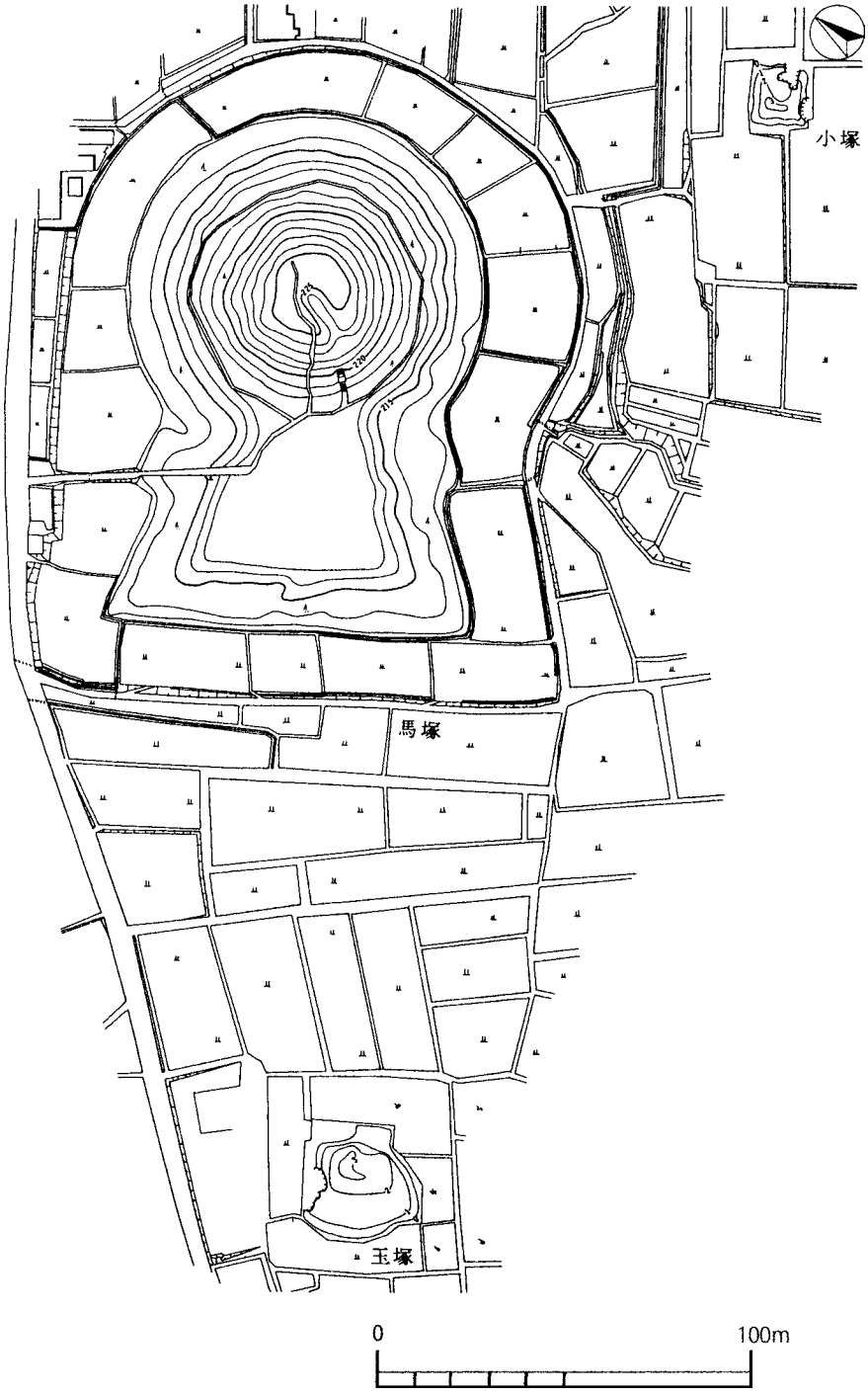
毘沙門塚墳丘測量図

主墳の殿塚古墳は、発掘調査がされておらず、出土遺物が明かでないが、ワキ塚１号墳、２号墳から出土した鉄製武器、武具の形式から４世紀末頭前後と考えられている。

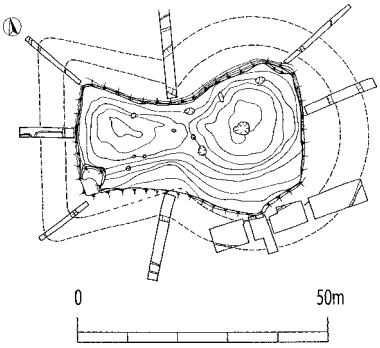
女良塚古墳（じょろうづか）　殿塚古墳の南西約200ｍに位置する。全長約100ｍで、北東―南西方向に主軸をとる。直径約73ｍ、高さ９ｍの大きな後円部に、幅40ｍ、長さ約30ｍ、高さ約３ｍの小さくて低い前方部がつく帆立貝式古墳である。墳丘は、後円部三段築成前方部二段築成で、全面を葺石で覆われている。墳丘の周囲は墳丘の形に即した鍵孔形に周溝が全周を巡っている。墳丘からは黒班を持つ円筒埴輪や家形埴輪が出土している。復元された家形埴輪（名張市教育委員会所蔵）は、高さ90㎝、幅90㎝、奥行50㎝の高床式の豪華な建物である。

毘沙門塚古墳（びしゃもんづか）　女郎塚古墳の西約350ｍに位置する全長約65ｍの前方後円墳で北東―南西方向に主軸をとる。後円部は大きな盗掘壙が掘られ変形しているが直径約44ｍ、高さ７ｍを測る。前方部は、先端部幅20ｍ、高さ３ｍのやや広がりながら延びる小さくて低い前方部がつく帆立貝式の古墳である。両側のくびれ部に四角い突起の造出しがつくが、東部の造出しは、土取りで削られている。墳丘は葺石が確認されている。墳丘周囲に周溝が巡る。埋葬主体部は、後円部の盗掘壙に板石が散乱することから竪穴式石室であったことが考えられる。出土遺物には毘沙門塚古墳出土と伝える長さ176㎝、幅23㎝、厚さ８㎝の木板がある。

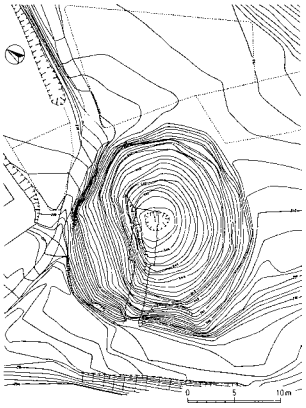
馬塚古墳（うまづか）　毘沙門塚古墳の南方約750ｍに位置する美旗古墳群中最大の前方後円墳で、北東―南西方向に主軸をとる。墳丘の全長142ｍで、後円部は直径98ｍ、高さ14ｍを測り墳頂部には盗掘壙が掘られている。前方部は、女良塚古墳や毘沙門塚古墳と同様に低平で短かいが、先端部幅100ｍ、高さ６ｍを測り前方部先端が後円部の直径をしのぐ広がりを示す。くびれ部両側に方形の造出しがつき、周溝が巡る。墳丘は、後円部三段築成、前方部二段築成で、葺石で覆われ円筒埴輪のほか家形埴輪や蓋形埴輪が出土している。墳丘から



馬塚・小塚・玉塚墳丘測量図



貴人塚墳丘測量図



赤井塚墳丘測量図

出土する埴輪片には、硬質の須恵質のものが含まれている。

貴人塚古墳　馬塚古墳の南東約500mに位置する前方後円墳で東西方向に主軸をとる。墳丘周囲は後世の水田耕作で大きく削り取られているが、昭和51年（1976）の周辺の圃場整備事業に伴い墳丘規模確認のため試掘調査が行われた。墳丘の全長55m、後円部直径35m、高さ4.5m、前方部先端幅35m、高さ4mを測ることや、墳丘周囲を墳形に沿った形で幅約5mの浅い周濠が巡ることが確認されている。埋葬主体部は調査されていないため明かでないが、墳頂部が直径約3mの円形に陥没していて横穴式石室の可能性がある。周溝の包含層から円筒埴輪や動物型埴輪の脚部などの埴輪と、単脚の三角透孔をもつ無蓋高杯、器台、杯身などの須恵器が出土している。本古墳の築造時期は埴輪や須恵器の編年から6世紀初頭と考えられている。

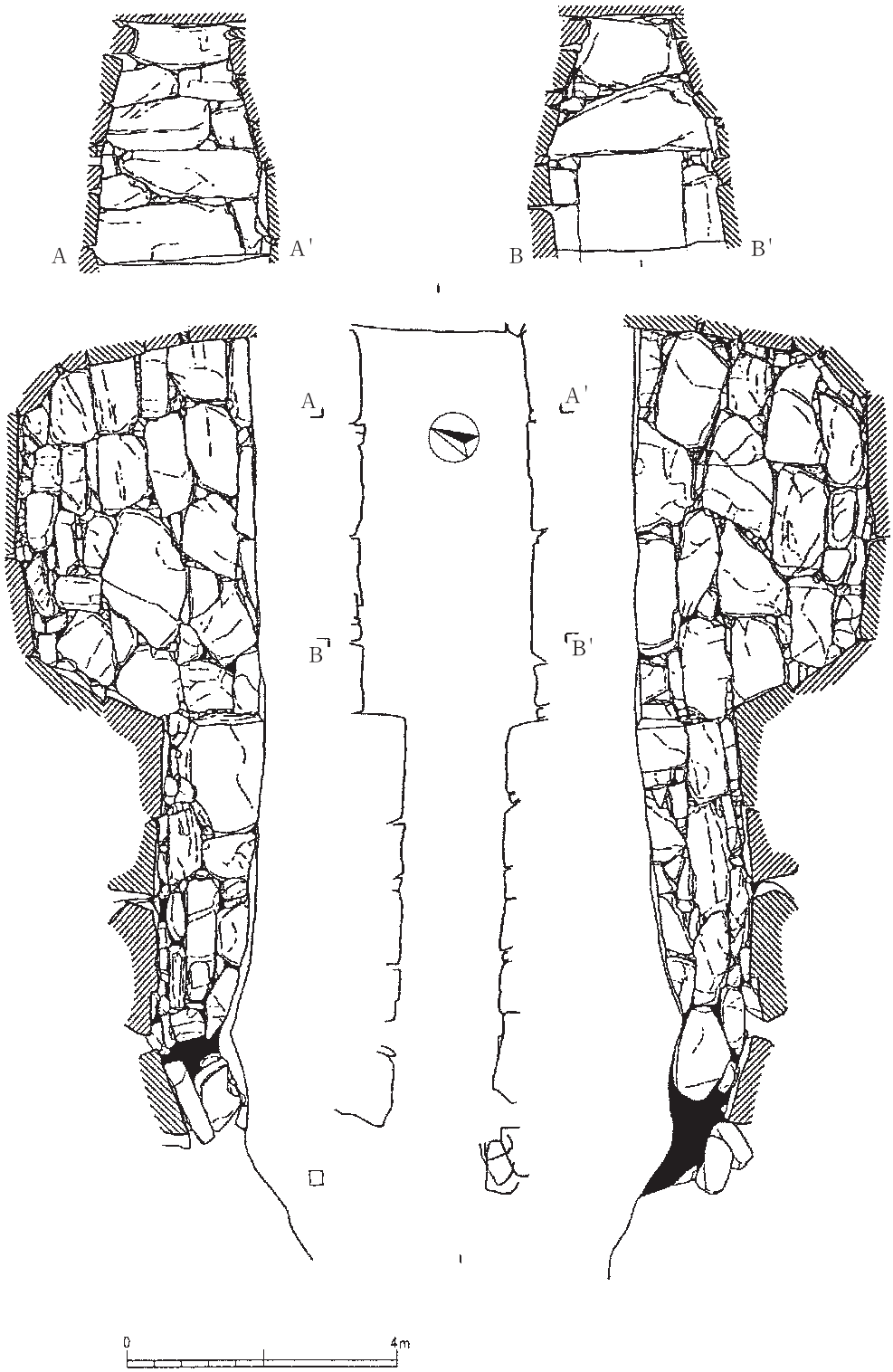
赤井塚古墳　貴人塚古墳の南約1.5㎞の丘陵地内に位置する円墳。現存規模は直径22m、高さ8.5mを測るが、周囲が畑の耕作で削られているため本来直径が30m前後あったと考えられる。埋葬主体部は南に開口する両袖式の横穴式石室で全長12.6m、玄室長さ5.7m、玄室幅2.4m、現状高3.5m、羨道長6.8m、羨道幅1.3m、現状高さ1.4mを測る。石室を構築する石材は一辺2m前後の大きな変磨花崗岩で、奥壁と前壁の持ち送りが大きく天井石は2石である。墳丘や石室内からの出土遺物は確認されていない。

以上が美旗古墳群を構成する主要な古墳であるが、この他に円墳と方墳があるが、方墳は主要古墳に付属する形で陪塚的な位置に所在する。

観音広1号墳　女良塚古墳の東約150mの陪塚的位置にある方墳で、一辺が16.6m、高さ2.3mで、墳頂部平坦面の一辺が7mある。出土遺物は確認されていない。

観音広2号墳　観音広1号墳の東約50mに位置する方墳で、一辺14.5m、高さ1.1mで墳頂部の平坦面の一辺が約6mである。墳頂部には盗掘壙と推定される窪みがある。出土遺物は確認されていない。

カブト塚古墳　女良塚古墳の東南約200mに位置する。現状は一辺約50mの方形の潅漑用



赤井塚石室実測図

溜池跡となっているが、方墳を破壊して溜池を造ったと伝えられ、鋲留衝角付冑、三角板鋲留短甲、刀、剣、矛、などの出土が確認されている。

矢羽塚（やはづか）　毘沙門塚古墳の東約75mに位置する。現状は水路や水田、農道で削られ封土の一部を残すにすぎない、葺石の一部や埴輪片が確認されている。明治16年（1883）の新田村地誌取調上申書の毘沙門塚の項に「其東凡五拾間矢羽塚ト称スルモノアリ其形状玉塚ノ如シ」とあって方墳であったことが推測される。

小塚古墳　馬塚古墳の東約50mに位置する方墳で、一辺15m、高さ3.5mを測る。現状は竹藪となっているが、近年まで畑として耕作されていた。埋葬施設は不明である。

玉塚古墳　馬塚古墳の南西約100mに位置したが、土取りと宅地造成で消滅した。昭和40年一部が調査され、一辺34m、高さ3.5mの方墳で、墳丘周囲を幅10mの周濠が方形に巡っていることが確認されている。墳丘からは円筒埴輪列や多数の家形埴輪が出土している。主体部は盗掘を受け明かでないが、墳丘中央部斜面から直刀15口が木板上に置かれて出土している。木板は欠損しているが、幅約50cm、長さ317cmを測る。

円墳は、赤井塚尾墳周辺に、小赤井塚１号墳、小赤井塚２号墳（消滅）が、赤井塚古墳の北約700mの丘陵尾根上には、奥山田１号墳、２号墳、宇曽田１～３号墳が所在する。いずれも横穴式石室をもつ直径10m～20m小円墳である。

美旗古墳群は、北東端部に築かれた４世紀末の殿塚古墳から６世紀初頭の貴人塚古墳まで５基の前方後円墳が出土遺物や墳丘形式の変化から順次築かれてきたことが理解され、築造間隔は、一世代の間隔にあたり、同一の系統を引く伊賀南部の首長の墳墓とすることができる。この後６世紀後半に大形円墳の赤井塚古墳が築かれた後、大規模な墳墓は、築かれなくなり、奥山田１～２号墳や宇曽田１～３号墳のような小規模な古墳が南部の丘陵地に築かれるようになったと考えられる。（水口昌也）

【文献】『青蓮寺開拓建設事業地域遺跡地図』三重県教育委員会 1970
森　浩一・森川桜男ほか「三重県わき塚古墳の調査」『古代学研究66号』1973
『三重県埋蔵文化財年報　昭和51年度』三重県教育委員会 1977
「〔史料紹介〕名張市貴人塚古墳の出土遺物について」『三重県史研究第14号』三重県 1998